

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3270400710
法人名	社会福祉法人 ひまわり福祉会
事業所名	グループホーム ひだまり
訪問調査日	平成 21 年 7 月 23 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 25 日
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400710
法人名	社会福祉法人 ひまわり福祉会
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	島根県出雲市神西町2452-1 (電話) 0853-43-3755
評価機関名	株式会社 ワールド測量設計
所在地	出雲市荻野町274-2
訪問調査日	平成 21年 7月 23日
評価確定日	平成 21年8月25日

【情報提供票より】(21年 6月 25日事業所記入)

開設年月日	平成 16年 4月 21日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 8人, 非常勤 12人, 常勤換算7.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄構造平屋建て 造り
	1階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	75歳		94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	出雲市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設28年の伝統ある介護老人福祉施設に隣接して立てられている。法人として地域福祉の核を担い、常に地域住民のニーズに沿って先駆的な取り組みが行われてきた。自然に囲まれた環境にありながらも、すぐ隣は民家であり地域に溶け込んでいる。1ユニット6人の変則性3ユニットが特徴であり、勤務体制を見直し、ユニット間で連携を強めている。ホームとしては開設6年目であり、利用者の高齢化、重度化による日常生活を見直し、心身の機能維持、回復に努めることが重要になってきている。利用者に応じて周囲が意図的・積極的に五感への刺激を暮らしの中で提供していくことが今後の課題となるであろう。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を全職員で話し合い、改善シートを作って改善に努めた。理念や記録用紙の見直しなど改善された点も多い。評価結果は運営推進会議で報告したうえで、全利用者家族に送付された。又、自由に閲覧出来るように玄関にファイルにして置かれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、パート職員も含めた全職員が1項目ずつ取り組み、改めて、前回の評価結果や改善計画の点検を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されている。利用者や家族、一般職員も交代で参加している。利用者の生活ぶりをスライドを使って紹介したり、防災訓練の様子を職員が再現するなど、会の参加者に分かりやすく伝える工夫がされており、より具体的な意見を引き出している。運営推進会議で得た情報は、ミーティングで全職員が共有し、サービスに活かしている。又、全利用者家族にも報告されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2か月に1回発行する「ひだまり通信」を渡して利用者の状況報告を行っている。職員担当制を導入しており、利用者や家族とより馴染み深い関係を構築し、面会の時や電話、手紙でプランやサービスに関する意向や要望を聞きだしている。遠方の家族など来所が難しい家族には、担当職員が電話や利用者の暮らし振りがわかるおたよりを書いて報告している。利用料の報告は毎月行っている。年2回の家族会では、運営状況、活動報告、外部評価結果、職員の異動などが報告されている。意見箱を設置したり、昨年は家族アンケートも行ったが特に意見は得られず、今年には行っていない。年2回(9月、3月)の家族会が開催され、職員と家族、又、家族間の交流をはかっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区のお祭りやとんどさんに参加したり、地域商店での買い物や散歩は、ご近所の方と触れ合う機会となっている。家に招いてお茶を頂いたこともある。来所されるボランティアも多様で利用者の楽しみとなっている。近隣住民の方(6軒)には防災協力員になって頂くなど、法人として長年築かれた地域とのつながりが感じられる。又、「ひだまり通信」の発行も3か月に1回から2か月に1回に増やして、近隣自治会へ全戸配布されており、地域の理解や協力が得られるよう啓発に努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、法人として検討委員会を設置し、運営のあり方を抜本的に見直された。それにあわせてホームの理念も地域密着型サービスとしての意義を踏まえ見直しをしているところである。自分達がどんなホームにしたいのかを、全職員で意見を出し合っている。		利用者や家族、地域の方にもわかりやすい言葉で表現された、親しみやすい理念が出来あがることを期待している。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲示されている。これまで、理念について確認しあう機会が少なかったが、今年は全職員で新しい理念を作るため、自分達が目指すホームについて十分に話し合い、同じ方向性を確認しあうことが出来た。	○	理念に沿った取り組み状況は伝えているが、理念自体の周知はあまりされていないようだ。新しい理念は、「ひだまり通信」にものせて、家族や地域の方にも浸透していかれることを期待する。
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のお祭りやとんどさんに参加したり、地域商店での買い物や散歩は、ご近所の方と触れ合う機会となっている。家に招かれお茶を頂いたこともある。来所されるボランティアも多様で利用者の楽しみとなっている。近隣住民の方(6軒)には防災協力員になって頂くなど、法人として長年築かれた地域とのつながりが感じられる。又、「ひだまり通信」の発行も3か月に1回から2か月に1回に増やして、近隣自治会へ全戸配布されており、地域の理解や協力が得られるよう啓発に努めている。	○	近隣の子供や、法人保育園との交流は、利用者を喜ばせ、癒しにもなるでしょう。継続した呼びかけをお願いする。又、ホームとして、地域への還元は今後の課題であろう。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を全職員で話し合い、改善シートを作って改善に努めた。理念や記録用紙の見直しなど改善された点も多い。運営推進会議で報告したうえで、全利用者家族に送付された。又、自由に閲覧出来るように玄関にファイルにして置かれている。今回の自己評価については、パート職員も含めた全職員が1項目ずつ取り組み、改めて、前回の評価結果や改善計画の点検を行った。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。利用者や家族、一般職員も交代で参加している。利用者の生活ぶりをスライドを使って紹介したり、防災訓練の様子を職員が再現するなど、参加者に分かりやすく伝える工夫がされており、より具体的な意見を引き出している。運営推進会議で得た情報は、ミーティングで全職員が共有し、サービスに活かしている。又、全利用者家族にも報告されている。	○	地区のボランティアセンターの会長に出席頂いているが、実際にボランティアで来所され、ホームや利用者の様子がわかる方にも参加をお願いするなど、参加者の広がりを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム協議会や地域の小規模連絡会、研修会等に参加している。2か月に1回発行する「ひだまり通信」を担当者に届け、ホームを理解して頂く努力をしている。成年後見制度を活用されている利用者があり、学習会に参加した。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所時や、2か月に1回発行する「ひだまり通信」を渡して利用者の状況報告を行っている。遠方の家族など来所が難しい家族には、担当職員が電話や利用者の暮らし振りがわかるおたよりを書いて報告している。利用料の報告は毎月行っている。年2回の家族会では、運営状況、活動報告、外部評価結果、職員の異動などが報告されている。	○	事故報告書では、家族への報告の経過までを記録に残されることをお勧めします。家族への手紙は、担当職員に任せられていますが、手紙を出す基本的な期間や内容を話し合われてはいかがでしょうか。さらに、出された手紙はコピー等して、事業所にも保存しておかれるとよいでしょう。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員担当制を導入しており、利用者や家族とより馴染み深い関係を構築し、面会の時や電話、手紙でプランやサービスに関する意向や要望を聞きだしている。意見箱を設置したり、昨年は家族アンケートも行ったが特に意見は得られず、今年も行っていない。年2回(9月、3月)の家族会が開催され、職員と家族、又、家族間の交流をはかっている。独自で契約した第三者委員の訪問を定期的に受けている。	○	今後も現状にあった家族交流を工夫され、継続されることを期待している。第三者委員が、家族の相談窓口としても有意義なものとなるように、趣旨や来所日を周知されてはいかがでしょうか。又、家族からの意見や連絡事項は、日誌に記録されていますが、別欄を設けるなど誰もが一見してわかる書式を話し合ってみてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットの職員を流動的に兼務させることで、継続した馴染みの関係を作っており、日によって交替しても利用者にはダメージはみられない。職員の入退職については年2回の家族会の時に報告している。グループホームでの馴染みの関係の大切さを考え、異動は最小限にと考えているものの、法人の職員育成に向けた取り組みにより、同じ敷地にある法人内で毎年1、2名異動がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務扱いで研修や勉強会に参加出来るように図っている。参加後は復命書を書き、職員会で発表することで情報の共有化と職員の能力向上に努めている。資格取得にも金一封が渡される等、職員の意欲を高めるよう配慮されている。福利厚生も充実しており雇用が安定している。又、法人としての強みを生かし、専門職の協力や助言を受ける体制がある。パート職員を含め、各種係を決めて交替で行うことで、自覚や意欲の向上に繋げている。ヒヤリハットは出来事報告書に記録し、再発防止に向け分析や対策を話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会や地域の小規模連絡会、研修会等に、一般の職員も交代で参加している。それによって近隣事業所に行事案内を出したり、利用者を交えて行事やお茶に誘って頂くなど交流を深め、行き来する機会が増えた。		地域事業所が一丸となって、認知症ケアやグループホームの啓発に努められることを大いに期待している。他事業所との交換研修は、職員の意識の向上やケアのヒントにつながるかもしれません。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	主任が利用者宅に会いに行ったり、入居まで定期的に連絡する。在宅ケアマネ等関係者からも情報収集している。本人やご家族に見学に来て頂き、職員とも馴染みの関係に努めながら利用に繋げている。今年度から空床利用短期入所を開始したので、状況によって活用しながら入居につなげていきたいとも考えている。入居後はユニットリーダーや担当職員を中心に、ホームでの生活に早く馴染んで頂けるようにプランにあげて支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢化、重度化によって、日常生活の介助が多くなってきており、その中でも洗濯物たたみやテーブル拭き、盛り付けなど出来る事を見つけて力を発揮してもらおう機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から意思表示されることが少なく、職員は必ず声をかけて本人に聞いてからケアを行っている。たとえ言葉にならなくても、表情や微かな動きから気持ちを汲み取るよう、全職員が心がけ実践している。日々の気付きは個人記録に書き込み、全職員で共有している。ホーム独自で委託した第三者委員も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット長、計画作成者、担当職員を中心に、利用者、家族の意向や主治医の助言を基にプラン作成をしている。それに職員の意見を書き込んでから、カンファレンスで話し合い、最終的なプランとしている。事前に家族を交えたカンファレンスを開いたケースもあるが、職員が作ったプランに意見や承諾を頂くケースが多い。	○	出来あがったプランを提示するのではなく、家族が共にプラン作成に参加していることを自覚できるようなシステムを話しあってみてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式のアセスメント用紙の取り入れや、毎日の記録用紙や勤務体制を見直し、申し送りを充実させたことで、利用者の変化をより共有出来た。毎月の評価を基に、3ヶ月毎のプランの見直しは全職員で行うように改善した。状態の変化があった場合は適宜、家族とも相談をして見直している。又、いつも職員がプランを意識してケアや評価が出来るように、個人カルテにプランをはさみ、見やすいようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院への送迎や買い物支援、家族の事情によっては通院介助もしている。今年度より空き部屋を利用した短期入所も開始された。行事やユニットの状況に応じて、出勤時間をずらしたり、フリーの職員をつけるなど柔軟に対応している。長期入院で退居された方への手紙やお見舞いなど継続した支援もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医と連携し、利用者の希望される主治医となっている。通院に関しては、家族にアンケートを行う等、利用者や家族の意見を尊重しながら検討されている。基本的には家族同行の受診となっているが、事情があれば職員が付き添う事もある。複数の協力医療機関の医師や看護師による定期的な回診や専門医の回診も行われており、通院距離が遠くなり、家族負担が増える場合は、納得して頂いたうえで、協力医療機関での往診を受ける方も多い。ホームには看護職員が不在であり、敷地内にある同法人施設の看護職員の助言、協力を受けている。服薬管理は、その日の業務担当者が行っている。	○	服薬管理は、その日の持ち回りでなく、固定した責任者を決め、確実な服薬と継続観察が望まれます。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで、全職員で看取りケアを行ってきており、技術的にも精神的にも向上してきているが、利用者、家族の安心を得られるためには看護職員の配置は欠かせず、現在も募集中である。終末期ケアのマニュアルを作成し、独自の看取り指針も作成している。利用者の状態変化に応じて主治医、家族と一緒に話し合い、リスクを説明したうえで、看取りの方針を共有してきた。	○	看護職員の早期配置が望まれると共に、救急隊や看護職員による応急手当の講習を定期的に継続し、一般職員の不安の軽減に努めて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや、個人情報の取り扱いについて、ミーティングで指摘したり、職員同士で注意しあっているものの、利用者の様子を見ながらホールで記録することも多い。又、一部慣れ合いな言動も見受けられる。訪室の際は、声掛けやノックをするよう心掛けている。	○	記録物の管理には十分に配慮して頂きたい。又、親しみの中にも年配者を敬う気持ちを示す言葉掛けを徹底されることを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事や入浴時間など生活は流動的である。居室で寝付けない方は、ホールのソファや畳の間で休まれる時もある。その日その時の利用者の気持ちを確認しながら柔軟に対応している。自分で金銭管理されている方が7人あり、他の利用者も日常の買い物ができるようにホームで管理している。	○	残存機能を活かしたケアに努めているものの、利用者が高齢化、重度化する中、どう過ごしたか意思表示される方は少なくなり、職員側のペースになりやすいので気をつけている。自然な生活を心がけながらも、周囲が意図的・積極的に五感への刺激を暮らしの中で提供していくことが期待されます。言葉かけはもちろん表情や体の動き、スキンシップなど、利用者に応じて積極的に感情を引き出す工夫を期待したい。余裕をもった勤務体制、職員配置が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は隣接する同法人施設のメニューを参考に、材料をもらって調理している。手の込むメニューは、法人施設で調理されたものを運んでいる。高齢化により調理は難しくなったが、出来る範囲で盛り付けや片付けを手伝って下さる利用者もある。朝食はパンやお粥が選択出来る。曜日によっては利用者の希望や嗜好に応じ、買い出しから全てホームでする日もあり、臨機応変に施設サービスを活用している。湯飲みや茶わん、箸は本人用で馴染みの食器を使っている。	○	全て法人給食に任せるのではなく、法人の栄養管理士の助言を得ながら、上手に法人施設のサービスを活用されている。食事は生活支援の柱であり、職員も一緒に作った料理を味わって、それを話題に楽しい食事時間を過ごして頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望されれば毎日入浴される方もある。2～3日に1回は支援している。時間や回数は、利用者の希望を聞いて職員が決めているが、その日の気分と体調に応じ、柔軟に対応している。本人の希望で必ず夕方に入浴される方もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、食器拭きなど出来る事を見つけて力を発揮してもらおう機会を作っている。月1回恒例の「ひだまりカフェ」では、季節の手作りオヤツを作り、ユニット間の交流や、他事業所の利用者や職員を招待して親睦を深めている。口笛、ハーモニカ、折り紙など定期的に来て下さるボランティアも増え、利用者を楽しませている。牛乳パックやペットボトルの蓋を集めるエコ活動にも参加されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や季節に応じた外出が計画され、四季を感じながらの外出を楽しんでいる。今年度は初めて遠出遠足も実現し、利用者の方に喜ばれた。花見には家族も一緒に出掛けて頂いた。花の水やり、畑の野菜の収穫も楽しんでいる。地域の馴染みの美容院に行ったり、家族が散髪される方も数人ある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけることはない。玄関を出入りすると「カランカラン」と優しい音がするようになっている。徘徊癖のある方で家族の希望があり、居室の掃き出し窓にだけ鍵をしている方が1名おられるが、居室入口は自由に出入り出来る。又、利用者本人の希望で、就寝時自分で居室入口に鍵をされる方が2名ある（ホームでスペアキー管理）。	○	鍵をかけることの弊害は全職員が十分理解している。その上で、家族と話し合い対応している。火災など災害がおきた場合に、居室の鍵は避難の妨げとなり得るので、機会あるごとに利用者、家族と話しあって頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団と連携し、消火訓練や避難訓練をしている。昼と夜の想定で行われており、火災緊急通報システムの稼働や近隣住民の協力(防災協力員)体制を整えている。訓練後には消防の方から講評を頂いている。運営推進会議の参加者に、防災訓練の様子を職員が再現して報告したところ、「車椅子は足りるのか?」「避難する順番は?」「避難後の居場所」など具体的な質問や意見が出された。実際に「避難後の居場所」は見直されて変更することになった。	○	敷地内同法人施設に備蓄が置かれているが、ホーム内にも最低限の備蓄は準備しておきましょう。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、同法人施設の栄養士を中心に、ホーム主任が参加する法人の食事検討委員会がたてたものを基本にしているが、ホームの利用者の希望や嗜好に合わせて変更している。利用者に合わせ、粥、刻み、ひと口むすび、低カロリーメニュー等、個別の形態で提供している。車椅子の方をはじめ運動量が少なくなっており、殆どの利用者が便秘傾向にあり、薬だけに頼らず、水分や乳製品により改善に努めている。		
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間取りや配置の違うフロアを持つ3つのユニットがつながっており、その合間に、いくつもの中庭があり明るい雰囲気である。ユニット間の移動が自由に見守られ、利用者のその日の気分で居心地の良い場所が見つけられている。風通しの良い場所には椅子が設けられていたり、畳のスペースでは、横になってくつろがれる方もあった。各ユニットに温度・湿度計を置いて快適に調整されている。	○	食堂やフロアには、明るい日差しが入り気持ちよいですが、日差しが利用者に直接あたってしまう時もあり、レースのカーテンなどの対策が急がれる。家族から申し出があった掃除ボランティアについては、前向きに検討されてはいいかがでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面やトイレ、押し入れもあり広々としている。入居前に自宅を訪問し、部屋の様子を把握し、使い慣れた家具や持ち物を持ってきて頂けるようお願いしている。家具は全て持ち込みで、配置も自由にされている。写真や絵を飾られた部屋、ベッドを使用される方、畳を敷かれている方など各々の個性がみられる居室になっていた。仏壇や鏡台を持ち込まれている方もあった。隣接する通所事業所の利用者に協力してもらい、職員と一緒に床を補修して、畳との段差を解消した居室もあった。		